

## 書写の授業時数確保のために —国語の授業から「書写の授業」を考える

千葉県千葉市立土気中学校  
備中 隆文

履修問題が浮上する今日、中学校一年生において、年間一四〇時間の授業時数の中で、週一時間を書写の時間として設定することは容易である。しかし二、三年生においては、年間一〇五時間の中で国語の授業時数を確保しながら、単元の間には書写の授業時間を設定することは現実的には、かなり困難となってくる。週三時間の国語の年間指導計画の中に、書写の授業を、いかに組み入れていくかは、教育現場の課題と言える。

そこで、年間指導計画に国語の言語表現力の向上のため、書写と連携させた授業を工夫できないかと考え、指導計画の工夫を試みた。

### 国語教材から書写への発展

#### 三年生

故事成語（名言）・韻文「和歌の世界」「季節を感じて」の発展として、自分の好きな詩や言葉を選び、毛筆で作品を書く。

#### 二年生

「短歌の世界」や「漢詩の世界」の発展として古文・漢詩の好きな部分を選び、短冊にサインペン・筆ペンで書く。

#### 一年生

「わたしたちと古典」の発展として、古文・故事成語を硬筆で書く。

### 図書室の活用と図書館指導員とのT・T

教材については、国語の授業で学習した内容、日常生活の中で目にした様々な言葉や詩などでも良いが、基本的には国語科授業の関連・発展と考える。古典の漢詩や漢文の発展教材として図書室で調べ学習を行い、さらに自分の思いや願い、あるいは学習した内容を作品にさせたい。

三年生の教材において、書体は、楷書・行書とした。図書室の五体字類だけでは資料不足のため、司書教諭の協力を得て県・市・地域の図書館より字書を借り入れ、楷書・行



書・草書字典を参考に、自分の思いを表現しやすい書体や、字形を選ぶようにし、学習成果が発揮できるようにした。また、辞書のコピーや辞書を引く作業には司書教諭の協力を得た。

### 三年生の授業実践例

国語の授業で学習したり、調べたりした内容の中から好きな言葉を発表する。発表の

場（文化祭）を設定することにより、書写力・自己表現力を伸ばしていく。

### 【第一時学習内容】

好きな言葉や自分の思いに近い言葉を教科書から選び、辞書を参考にして構成図を作成する。



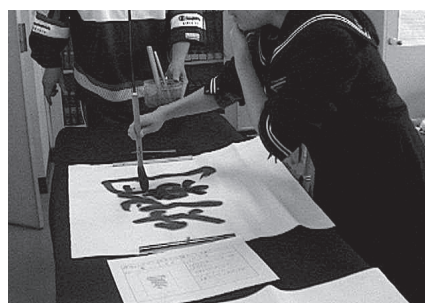
生徒の構成図例

### 【第二時学習内容】

練習用紙に練習する。



【第三時学習内容】  
作品を完成させる。



### 表現方法の工夫

表現方法については、書道用紙（様々な大きさ）のほかに、各自が用意した市販の色紙・



作品例

短冊・プレート・皿・表示札などを使用し、濃墨だけにこだわらず、朱墨や淡墨、水性のペンキなどを使用する。自分の思いを作品にし、文化祭や廊下に展示、最終的に自分の思い出の作品とする。このことによって、目的意識を持って学習が進められるのではないかと考え、工夫を試みた。

### おわりに

中学校の書写の今後のあり方を考えてみた。学校教育においての書写授業はどうあるべきであろうか。まず、点画の書き方や文字の形の取り方を学ぶことは大切である。そして更に、自己表現として、自らの気持ちや、学習した内容を様々な形で作品にし、他の人に鑑賞してもらったりすることも、個性を尊重する意味で見落としてはならないことであり、まさに自己との戦いであり「自分づくり」につながると考える。

また、書写の授業時数の確保という観点に立って、国語の授業との連携・発展をするなかで、書写の授業展開を考えていくことが今後の課題と考える。

びんなか たかふみ 真っ白な面に、筆を走らす書の喜びを、義務教育の書写の授業で、一人でも多くの生徒に実感してもらいたい。